



東地中海地域ニュース

レバノン：ナスラッター・ヒズボラ書記長のスピーチ (1月29日付現地各紙)

1月28日、イスラム教シーア派のアシュラの祝日集会でナスラッター・ヒズボラ書記長は次の要旨のスピーチを行った。

1. 親政府政治グループは、スンニ派とシーア派の宗教対立を煽ろうとしているが、これはイスラエルを利するだけである。ヒズボラは過去の内戦に参戦しなかったし、将来も内戦に参加しない。ヒズボラは最大限の自制を行う。
2. 1月25日のベイルート・アラブ大学での事件は、我々を戦いに引き込む為に仕掛けられた罠であった。司法機関に対し厳正な措置を取るよう求めると共に、宗教者から成る委員会の設置を呼びかける。宗派対立を煽った責任者は極刑に処せられるべきである。同事件での犠牲者の家族は復讐を行なってはならない。
3. ヒズボラは常に抵抗運動の準備をしておかねばならないが、その武装をレバノン国民に向けることはない。レバノン国内では、改革運動を続けることが我々の義務である。昨年の夏、ヒズボラはイスラエルとの戦いに忍耐と武器で勝利したが、国内では忍耐だけで勝利しなければならない。
4. 最近、ブッシュ米大統領がヒズボラを標的とした作戦を行なう可能性を明らかにしたが、親政府政治グループがこれについて沈黙していることを批判する。ヒズボラは誰にも助けを求めることはしないが、自らの名誉を守る為に自衛行動をとることは宗教的義務である。
5. 親政府政治グループの指導者は、野党グループの中にいるキリスト教徒、スンニ派、ドルーズ派の存在を無視し、ヒズボラのみを焦点を当てて、スンニ派政府に反抗するシーア派という誤ったイメージをアラブ社会や国際社会に広めようとしている。